

2015/09/20

第 2 回 高校生 ICT Conference in 大阪 第 1 班 記録

記録者：渡辺 豪

F=ファシリテータ J=事業者・見学者 S=生徒

【 議事録開始 】

F『議論するための問題提起を書いていく。』

S「個人情報載せてはいけない。でも、これを守っている人いるかな？離れた人とつながれる、探してもらえるとという利点も消してしまう。」

S「歩きスマホは、その人次第でやめられるのでいいルール。」

S「時間制限は守ることが依存の解決に繋がるの？」

S「スマホ制限はみんな iPod とかの端末買うからあまり意味がないと思う。」

S「携帯を多用していても、他人から言われるまで自覚がない。時間決めたらその間は何してもいいのか。」

S「歩きながらスマホって本人以外も危ない。」

S「歩きスマホは周り見ることもできるのではないか。」

S「都道府県ごとにある使用制限は不平等なので全国的な法整備をしてほしい。」

S「運転しながらスマホをやっていたりするのをよく見るので、いつか本当に被害をだしてしまうのではないかと感じている。」

S「自転車のながらスマホはフラフラしていて態度も悪い、禁止するべきだ。」

S「法律が片耳や歩きのイヤホンを許容しているが、それもどうにかするべきだ。」

F『どの題材がこの場に適していると思う？』

S「歩きスマホ、依存系の数が多いから、それらが良いと思う。」

F『この問題に対してどうしたらいいか、例えば歩きスマホはどう対応するべきなのか？』

Q。F『歩きスマホの被害あった人は？』

2人

Q。F『歩きスマホしていてぶつかった人はいる？』

0人

S「一度危ない状態にあったことがあるので、それ以後は止めるようにしている。」

F『気をつけたらいいのではないかという指摘に対してどう？』

S「気をつけるための基準がないし、それを徹底するのも難しいように思う。」

S「スマホの機能として金属探知とかつけて自転車を予測しては？」

S「人に反応するセンサーとか良いかも。」

S「自分のスマホに歩きスマホ検知ソフトが入っていて、振動を感知するとポップアップが出る、応用して動作禁止になるようにしては？」

S「道にベンチを設置して、とどまれるところ Wi-Fi スポットを用意する。」

S「実際に体験したらどれだけ危ないかを体験してもらおうとか。」

S「人は意外と気づく、しかし自転車ははやくて気がつけなからレーンを分けてしまう。」

S「使うのであれば止まって使う、自分の視界に情報を載せられるようなものヘッドマウン

トディスプレイみたいなのがあればいいよね。」

S「前方視界が確保できればいいよね。」

S「地面に歩きたばこが許容される場所があったりして、それを応用すれば。」

F『提言をするとき、ながらスマホをしてしまう人の気持ちを考えたものにもしなければいけない。』

F『なぜその人たちはそうしてしまうのだろう、その人たちにとってのメリットは何か、それを教えて欲しい。』

→音楽を聴くと時間を有効にできる

→地図アプリは歩きながら出ないと不便

→何かしてないと不安

→効率がいい

F『これらを見てどう思う。』

S「暇などはともかく、地図アプリに関してはどうだろう？」

S「街中の地図を増やすとか？」

S「まず歩行者と自転車をわけるべきでは？」

S「地図アプリはともかく LINEなどで発信が入ると、集中がそちらに行ってしまう、道路をわけるのは経済的に現実的ではない。」

S「道路を色でわけてしまうことで意識させる。」

F『道路を作るということはそこではながらスマホを許容することであるけど、どう思う？』

S「地図はいいけど、食べ物・ゲームはだめ、基準が曖昧。」

S「スマホ買う時は契約書を書かせるとか」

J【自己責任というのは賠償責任をおうことでもある。】

J【なんでも駄目というのではなく、その結果どうなるかを考えることで、責任にたいする考えが生まれる。】

F『モラルを意識してもらうことでなんとかなることが多いので、それをどう感じてもらうか。』

S「自分には関係ないと思ってしまう場合が多い。」

S「子供は学校でいいけど大人をどうするか。」

S「会社とか地域の決まりごととして、講習会に参加するなどはどうか。」

S「私たちの意見としては、まず意識改革、周知、そして具体的な対策。意識してもらう。」

S「意識することで歩きスマホを減らし、残りは自分の責任のもとに、歩きスマホ専用のレーンを走ってしまおう。」

F『じゃあ、それを提言にして発表していこうか。』

-----発表用資料作成開始-----

【 議事録終了 】

2015/09/20

第 2 回 高校生 ICT Conference 2015 in 大阪 第 2 班 記録

記録者：佐々木 裕太

F=ファシリテータ J=事業者・見学者 S=生徒

【 議事録開始 】

F『歩きスマホや既読無視などスマホのトラブルに思っている率直な意見をポストイットに書いてみよう』

- ゲームアプリや SNS の関連
- SNS で顔写真などの個人情報
- ツイッターでの乗っ取り
- 学校にスマホ持ち込み禁止などの問題点
- ながらスマホの対策
- SNS 上の発言問題
- SNS のアカウント共有
- 既読無視に気をかけすぎている
- LINE などでの友人関係の問題

F『既読無視などちょっとしたトラブルをどうすれば解消するか少し考えて見えよう』

- 悟ればいい
- 重要なことであれば返事をすればいい
- 送る人は相手の事情を考えては

F『もし、既読無視をしなかった場合その時にはどのようなデメリットが生じるか』

- 勉強時間や睡眠時間の妨げになる
- 勉強に集中できない

F『実際に、既読無視をされて嫌な思い出をした人とかいる？』

S「後日、本人から怒られた」

J【きみたちが問題解決の理想としているものはなに？】

- お互い相手のことを考える
- LINE 社が“既読”をなくす
- 最初からお互いルールを決めておく
- グループを連絡用や雑談用等細分化する

S「ネット上の会話ではなく対面での会話も重要ではないのか」

S「未読無視はどうするのか」

- どうしようもない
- とりあえず既読をつける
- 既読無視も未読無視も同じこと

F『時間も押してきたので、パワーポイントの作成をしていきましょう』

-----発表用資料作成開始-----

【 議事録終了 】

2015/09/20

第 2 回 高校生 ICT Conference in 大阪 第 3 班 記録

記録者：原 英莉

F=ファシリテータ J=事業者・見学者 S=生徒

【 議事録開始 】

F『スマホの使い方に関心点はないか？自分が気になることをあげてください』

- 使用場所を守らない
- ルールが厳しいからでは？
- 就寝時間が遅くなる
- 電車の中で通話している人
- テスト期間でも使用している
- 歩きスマホ
- 休暇中ならば睡眠時間を割いてまでも通話等してしまい、次の日が眠い
- 携帯内のコミュニケーションが多くなるので対人で話すことが減っている

F『今あげた問題以外にもかんがえてみよう。』

F『付箋の中から話題にしたいテーマを決めよう。追加も OK』

S「使用時間に関する問題が多い」

F『ペンを使って、少しまとめてみよう』

- 使用場所
- SNS
- 依存
- ながらスマホ
- 犯罪行為
- 自己管理
- コミュニケーション

F『このテーマの中から決めよう』

S「依存が多いので気になる」

F『SNS と依存は繋がることもある。書いている中で自分も体験したことがあることには改善策をかんがえてみよう』

Q:F『親にやめなさいと言われ辞める人はいる？』

- やめる：1人

F『反省することがあるっていうことだね。どんなことをすればできるか？』

S「罰金などでお金をとるとか？」

F『何かアイデアがあれば書こう。スマホ依存について』

F『どんなふうになれば抑えることができるか書いてみよう』

- 制限を守って報酬をもらう
- 罰金制度を設ける
- SNS に年齢と時間の制限
- SNS 以外のアプリを適切に使う
- フィルタリングを使う

S「フィルタリングを使い、時間制限を設定してはどうだろう」

F『LINE にその機能がついたらどうする？設定するか？』

S「難しい。使わない。」

F『なんで？』

S「制限があれば、使いたい時に使えないから。」

S「年齢制限があれば使えないと思うからいいと思う。」

F『機能があるのはなぜ嫌なのか？』

S「LINE をしたいから」

F『先ほどのアイデアに戻りましょう』

- 充電回数を制限
- 通話中に勉強する
- 友人の前でスマホを触らない
- 充電を手動にする
- いっそのことスマホを壊す

F『Wi-Fi ならば使用時間が決められる。親にされたらどうか?』

S「Wi-Fi を切っても使う。」

S「勉強アプリで勉強する」

F『スマホで勉強はできるか?』

S「アプリ次第」

S「本人の意志の問題だと思う」

S「やはり罰金制度。」

F『お金はどうする?』

S「親に渡す。お小遣いを減らしていく」

F『他に方法はないのか?』

Q : F『1 日何回充電するのか?』

- 1 回
- 2 回以上

F『LINE の時間制限機能を付けても使うならどうするのか? 使用時間を減らすアイデアなにがある?』

F『いつ頃から依存したと気づいた?』

S「中1 くらいから。買ってもらってから嬉しくて依存した。」

S「中1 から使っているが。受験終わってから LINE を始めだした時から。」

F『携帯より強いものはなんだろう? 依存を変えるものはなにか?』

S「携帯にまつわる怖い話をして脅す。」

S「強制的でないとダメな人もいるのでは?」

F『ならどうする?』

S「罰金や没収しかないのでは」

F『使用時間明細を見ているか?』

S「時々みる。」

-----発表用資料作成開始-----

【 議事録終了 】

2015/09/20

第 2 回 高校生 ICT Conference in 大阪 第 4 班 記録

記録者：中西 巧

F=ファシリテータ J=事業者・見学者 S=生徒

【 議事録開始 】

F『ゴールはもう見えた状態でその背景を話し合おう。今から二つの意見を書いてほしい。』

F『1つは自分がしていたりするルール、2つ目は自分が思うインターネット上でのルール』

→以下自分のルール

→通信制限があるから LTE 接続時はゲームをしない

→SNS のメッセージではなく、電話や実際に会って話す

→SNS に時間制限を設ける

→以下インターネット上のルール

→パスワードは大文字、小文字、英数字を使う

S「ネットで悪口を言わない」

S「実際に会って言うのは良いですか？間違っていることを批判するのはいいとおもう」

S「そうゆうことではない。それでも言いすぎることはある」

S「相手のことを考えて言う」

F『あいての何を考える？』

S「寝ている時間とか、人間関係とか。」

S「LINE をしない」

S「どうゆう時に LINE をしたりする？」

S「暇なとき」

S「ラインの既読機能を消したり、感情をだしたりする」

S「なんで既読機能なくすの？」

S「メールにはなかったのにその機能がついたのが原因でいじめになったりするから」

S「感情をつけるって？」

S「言葉じゃよくわからない時があってふざけているのかがわからない時がある」

S「はぶりグループ、ディスリグループには参加しない」

S「グループの招待を断ったらそのグループに反感を受けませんか？」

S「今考えたらあったかもしれない」

S「グループに入って注意したりはしますか？」

S「自分の意見がトラブルのもとになってしまうのではないかとおもう。あまりかかわらないようにしたりしている。」

F『テーマにするものを1つ決めてください。話を膨らませて言って、その話で発表するようになる』

S「チャットでの制限とかあるから既存のルールより、まだ何も規制したりしていないものを題材にしたい」

S「データの使用量とかはマイルールになる」

S「法律で決められているものじゃなくて思いやりの問題とかもある」

- S「自分の家とかを特定されるから、身近な写真をネットに載せない」
S「高校生の自分たちだから犯罪になったりすることにもガッツリ言える」
F『誰に対して話すのか？それを決めていく』
S「誰に言いたいのか？」
S「高校生がいいと思う」
S「小学生でもスマホを持っている」
S「小中学生を対象にしたらいいと思う。小学生は学校とかで何か言われたりしたりしてないから。高校生は学校で注意したりする」
S「小中学生と保護者を対象にしたらいいと思う」
S「小中学生がトラブルに巻き込まれたりしないようなことを題材にしよう」
S「【現実と非現実】と【思いやり】をテーマでいこう」
S「【思いやり】で出てきたものを問題として例として【現実と非現実】にしたらいいじゃないか？逆にするもいいかも？」
F『さきに結果を先に出してそのギャップを出して、質問形式で話を膨らませます』

-----発表用資料作成開始-----

【 議事録終了 】

2015/09/20

第2回 高校生 ICT Conference in 大阪 第5班 記録

記録者：日下部 拓人

F=ファシリテータ J=事業者・見学者 S:=生徒

【 議事録開始 】

F：『大人が考えたルールとマナーを書き出していきましょう』

- 個人情報について →迷惑メールを送らない
- 年齢制限(課金等) →ながらスマホ
- 授業中のスマホ禁止

F：『書き出したものにジャンルやタイトルをつけましょう』

- 権利 →年齢制限(課金) →迷惑行為 →校則 →出会い系

F：『これらにはどういった効果がある？(どうしてルールを作らなくてはいけなかったのか)』

S：「授業中のスマホ禁止は生徒の学力向上や、自分の身を守るため」

S：「学校の機材等を壊さないようするため」

S：「迷惑行為をしなというルールは相手の気持ちを考慮して考えたものです」

S：「ネット上での課金は金銭感覚を狂わせる。もし多額の金額を請求された時、学生は自分自身で責任取れないからやめた方が良くと思う」

S：「ながらスマホ禁止は人にぶつかるという事故を防ぐため」

S：「パスワード使い回しは、アカウントの流出や個人情報知られてしまうかもしれないから」

S：「迷惑行為は SNS 等での楽しい会話を崩してしまうかもしれないから
飲食禁止は授業の妨げなどにつながるから(機材が使えなくなるため)」

S：「出会い系等はなりすましなどの危険があるため(そこから事件につながる)」

S：「著作権は魅力的なものが盗作されてしまうから」

S：「SNS 等での暴言やいじめで、自殺につながる恐れがあるから」

S：「年齢制限は、子供は正しい判断ができないために必要」

F：『じゃあこれらをまとめて高校生ならではの視点で解決策やルールを考えて見ましょう(自分だったら〇〇というルールを作るより〇〇するなど)』

S：「年齢制限って勝手に偽装している人がいる」

F：『なんで年齢制限はあるのだろう？偽装させないためにはどうしたらいい？』

F：『IT に関わらず普段の生活から改善できない？』

- 肖像権は写真を使う前に本人に確認を取る
- 授業中はスマホを回収する
- 年齢制限は自分自身が自制心を持つ
- SNS の使い方について自分の持てるアカウントを制限する
- 写真を使う時は画像を加工して個人を特定できないようにする
- ながらスマホは禁止の法律を作って、周りに呼びかける
- フィルタリングを利用する

- SNS 上での知り合いと合わない
- 課金しようとするエラー文が出るようにする
- アカウントに鍵等をかけて閲覧できる人を制限する
- 出会い系サイトは自分が正しい使い方を覚えて間違った使い方をしないようにする
- 迷惑行為(チェンメール等)は自分のところで止める
- 友達同士でトラブルにつながりそうなことは注意しあう

----- 発 表 用 資 料 作 成 開 始 -----

【 議事録終了 】